

県指定名勝伊奈富神社庭園（七島池）発掘調査スライド説明会資料

日時：平成 28 年 5 月 21 日（土） 午後 2 時

会場：鈴鹿市考古博物館講堂

1. 文化財の概要

- ① 文化財名 伊奈富神社庭園（三重県指定）
- ② 種別 名勝
- ③ 指定年月日 昭和 57 年（1982）4 月 27 日

2. はじめに

県指定名勝「伊奈富神社庭園」は、池中に七つの島があることから「七島池」と呼ばれています。古くから地域住民に親しまれ、今日まで大切に守り伝えられてきました。神社所蔵で、室町時代後期（15 世紀前半）の様子が描かれたと考えられる『勢州稲生村三社絵図』にも描かれており、県下においても貴重な名勝であるとして、昭和 57 年（1982）4 月に県名勝の指定を受けました。

近年、池の周囲や島に生育する樹木等の成長とそれに伴う風倒木による崩壊や、汚泥の堆積による水位変化に伴う侵食などによる島や池岸形状の変化、池底に堆積した汚泥等による水質悪化など、庭園環境が変化してきました。

伊奈富神社では、この貴重な庭園を本来の姿を保ちつつ後世に守り伝えるため、平成 27 年度 から伊奈富神社庭園修復保存事業に着手しました。初年度は、庭園の経年変化の状況、造成された当時の原状を確認するための発掘調査を計画し、平成 27 年 7 月 20 日から 9 月 30 日にかけて実施しました。

3. 伊奈富神社の歴史

社伝では、崇神天皇 5 年に、伊奈富神社の大宮・西宮・三大神の三社がこの地に鎮座したと伝えています。その後、奈良時代天平年間（8 世紀中頃）に行基上人が別当寺の神宮寺を建立し、平安時代の天長年間には弘法大師が参籠の折に菩薩堂を建立して三社の本地仏を祀り七島池を一夜にして造ったと伝えています『勢州庵芸郡稲生神社記』。

貞観 7 年（865）には正五位から従四位下に進階し（『三代実録』）、10 世紀初めの『延喜式神名帳』に伊奈富神社の名前が記されています。この頃、神社の領地は、東は現在の白子、西は国府、南は秋永、北は野町に至る広大な範囲となっていたようです。

鎌倉時代中頃には正一位に進階し、文永 11 年（1274）、三社に勅額を賜っています。以後、「正一位稲生大明神」として武将達の信仰を集めたことが、神社領寄進や社殿の増改築にかかる棟札の記録などからも伺えます。また

神社所蔵の『勢州稲生村三社絵図』から、室町時代後期（15 世紀前半）頃の神社境内地の様子を知ることができます。江戸時代元文年間（1736～1741・江戸時代中期）には、紀州徳川家より造営料銀二十二貫を賜り、三社の大造営が行われました。神社には、平安時代以降各時代に作られた神像や仏像・神宝類を多数所蔵しており、神社や地域の歴史を伝える貴重な資料ともなっています。

4. 伊奈富神社庭園の立地

伊奈富神社は、鈴鹿市の南東部を流れる中ノ川下流域に広がる沖積平地の北側端部に位置します。現在の伊勢湾の海岸線からは約 3.4km 内陸になります。北方には鈴鹿南西部丘陵地の端部にあたる標高約 36 m の稲生山が広がっています。伊奈富神社一帯は標高 20 m ほどの独立丘陵となっていて、神社はその南斜面に、庭園は裾部に立地します。庭園部分で標高は約 4.5 m です。南面には中ノ川下流域の水田地帯が広がっています。

稲生山丘陵とその周辺の段丘上では、稲生山遺跡・北野遺跡・祓山遺跡・今村 A 遺跡などの旧石器時代から縄文時代にかけての石器散布地が多く確認されています。

弥生時代の遺跡としては神社南東の丘陵に所在する南谷遺跡で弥生時代後期の高地性集落遺跡が調査され、環濠（堀）から鉄鏃が出土しています。

古墳時代後期、稲生一帯は須恵器の生産地でした。鈴鹿サーキット遊園地建設時には 2 基の窯跡が発見されています。伊奈富神社の所在する小丘陵の西斜面では国鉄伊勢線建設の際に伊奈富遺跡が発掘され竪穴住居 5 棟が検出されました。また、西方の丘陵西斜面に立地する稲生遺跡では、中勢バイパス建設の際に竪穴住居 33 棟からなる大規模な集落が確認され須恵器生産に関連する集落と考えられています。また、甲懸遺跡からは多数の埴輪片が出土し古墳群または埴輪窯が存在したと考えられます。こがね園団地造成の際に稲生東遺跡が発掘調査され、古墳時代後期から中世にかけての複合的な集落遺跡であることが確認され一部が公園として保存されています。

中世の遺跡としては、稲生集落の南端に稲生城跡が所在します。現在は東西 90 m×南北 150 m の高まりとして残り、わずかに土塁らしき痕跡と周囲に掘割らしき地割をとどめています。この城は『勢州稲生村三社絵図』にも「稲生殿城」として 3 基の廓が描かれています。

5. 伊奈富神社庭園の研究史

伊奈富神社庭園については昭和30年頃、庭園史研究家森蘊氏による測量調査が行われています。

また、昭和46年には重森三玲氏が会長を務める京都林泉協会が庭園の現地測量調査を行い、詳細な実測図を作成しました。

昭和48年に重森完途氏は、『日本庭園大系(1) 上古・日本庭園源流』において「伊奈富神社庭園は、日本庭園の根源的形態を示すものの一つであり、今日、我々が「庭園」と言っている鑑賞・実用のものではない。(中略)。ほぼ直線上に並ぶ神島の配置は、上古庭園としての形態をよく残した遺構である。」と紹介しています。

昭和56年、森蘊氏は三重県文化財保護審議会委員として県名勝指定のための確認調査を行い、この際に再測量と植生が記録された『伊奈富神社七島池庭園略測図』が現在でも基本資料となっています。

7. 発掘調査の成果

池の平面形は、東西に長い隅丸長方形です。東西の長さは約72m、南北の幅が約10～17mほどあります。島は7つあり、東西方向のほぼ一直線上に並んでいます。(調査では西側から島1～島7と仮称しました。)島2が最も大きく、中央やや東寄りにある小さな島4・5は、ほぼ南北に並んでいます。池や島の岸辺は、護岸の石積みなどはみられず、素掘りの池岸です。池の周囲や島には多くの樹木がありますが、これらは庭園の植栽として植えられたものではなく自然に繁茂したものと考えられます。

今年度の調査は、今後の修復工事の方法などを検討するため、庭園の経年変化の状況、造成された当時の原状を確認することを目的としています。池を南北に横断するラインを設定して3箇所、島と島の間、池の岸3箇所、排水施設部分の計8箇所にトレンチ(試掘溝)を設定して調査を行いました。

トレンチ1

トレンチ1は、西から3番目と4番目の島の間東西方向に長く設定しました。二つの島の築造状況と、島の間池底、池底堆積物の状況を確認しました。池底面に堆積した腐葉は極めて軟弱です。島の周囲1mほどは安定していて歩けるものの、中央部は全く足を支えることのできないほどの柔弱な状態で、上辺3m、底辺2m、深さ0.8mの逆台形の腐葉と泥の堆積①②となっています。この層からはビニール・空き缶等も出土し、近年までは落ち葉や枯れ枝で埋もれるたびに、池さらいが繰り返されていた状況が想定されます。

島部分の堆積状況は、残りのよい島4側で観察すると基盤層が青灰色～灰色の砂質シルト⑩・⑨です。この層は南に向かって傾斜しています。その上面には黒褐色・暗褐色の粘質シルト層⑧が堆積しています。おそらくこ

の⑧層が池・島が築造される前の地表で、湿地状であったようです。その上層には暗褐色シルト⑦・灰黄褐色シルト⑥が堆積しており、これらは池を掘った際の排土を積み上げ島を築造した盛土部分と思われます。最上層は褐灰色泥状シルト③で、これは島の盛土の上部が波で洗われ崩れて再堆積したものでしょう。

島3側は、侵食による破壊がいつそう著しかったようです。そのためか、現在の島の岸から1.5mはなれた地点に直径0.2mの丸太を横たえ(胴木)、溝側に立杭2本を打って枠を作り内側に泥土を積みなおす護岸工事が行われていました。この丸太の下部から出土した陶器や瓦などから近世に行われた工事と分かります。本来の池の水位はこの護岸の胴木のレベルだったみられます。

トレンチ2～4

池の南北岸と中島の築造方法、変化の状況を確認・検討できるよう、最大の島である島2をほぼ南北方向に貫くようにトレンチ2・3・4を設定しました。

トレンチ2は堆積している腐葉と泥の堆積を除去すると直ちに青灰色砂質シルトの基盤層⑥に達します。深さは現底面から0.6mほどです。断面は他のトレンチとは異なり浅い皿状を呈していて、本来の島の肩は見られません。これは、狭い範囲で底さらえが繰り返されたため削られてしまったみられます。島・岸に接する狭い範囲には崩落の再堆積による黄灰色砂質シルトの堆積②・③が見られ、島側からはロクロ形成の土師器皿が、岸側からは山茶碗の底部が出土しました。

トレンチ3も、中央が上辺約3.5m、底辺2.5m、深さ0.9mほどの逆台形逆台形の腐葉・泥の堆積①・②となっています。南岸側の堆積は、下層から灰色砂層⑫・灰オリーブ色シルト⑪、黒褐色粘質シルト⑩であり、ここまでが自然堆積層で、その上層に黄灰色シルト④の岸盛土が崩落したものが堆積していました。島2側では池底の堆積であるヨシ類の根を含んだ黒褐色粘質シルト⑨の上面に、池を掘った際の排土である黒褐色シルト⑧、暗褐色シルト⑦、灰黄褐色粘質シルト⑥を積み上げて島としています。ここも、トレンチ1における島3岸側と同様に、現在の島岸から1m以上はなれた地点に丸太を胴木として立杭で固定した護岸が行われていました。

トレンチ4は島2本体の堆積状況を確認するためのトレンチです。島の中央にはかつて祠があり、その基壇が方形の高まりとして残っていました。その端から南岸のトレンチ3に向けてトレンチ4を設定しました。最下層が島築造以前の沼堆積層⑭で、黒褐色粘質シルト⑪・灰黄褐色粘質シルト⑩が島築造時の盛土層です。⑩層上面から青磁碗が出土しました。その上層には、暗褐色シルトを主とし腐食した植物繊維を多く含む⑨⑧層が堆積しており、島築造後の自然堆積または池さらいによる腐葉の積み上げのいずれかの長期にわたる堆積と思われます。その後、明黄褐色の山土による明らかな造成⑥が行われ

ています。遺物は含みませんが、トレンチ5・6などでも山土による大規模な造成が行われておりそれと期を一にするものと見られます。その後、祠基壇造成に一致する灰黄色シルトの整地層④が行われ、これは石版破片を含み明治時代以降のものとして見られます。なお、このトレンチ南端にはトレンチ3側から水蝕によるえぐれが及んできています。

トレンチ5～7

トレンチ5は、池築造前の岸の状態を知るために設定しました。現表土から約1mで灰色シルトの基盤層⑤が現れます。その上面には断片的に灰色砂質シルト層④が残っておりここから古瀬戸皿片が出土しました。おそらくここが中世の旧表土にあたるものと見られます。その上層には細かい明黄褐色シルトの山土が厚く堆積しており③・②、時期は不明ですが大規模な造成が行われていることがうかがえます。

トレンチ6については、池の西岸の状況を確認するために東西方向に設定しました。現表土から約0.9mで灰色シルトの基盤層が現れます。その上面は灰色砂質シルト層となっており、ここから土師器皿・須恵器甕・山皿等の遺物が出土しました。ここが中世の旧表土にあたるものと見られます。その上層にはトレンチ5とほぼ同様、造成土と見られる明黄褐色シルトの山土が厚く堆積しています。

トレンチ7は、池南側の築山状の盛土と池岸の状況を確認するため、南北方向にトレンチを設定しました。下層の低湿地の南への広がり確認できることを期待して1.5m以上掘り下げっていますが、黒褐色腐植土は現れず、5・6トレンチ同様の灰色シルトの基盤層が現れました。よって、低湿地は狭い谷状であったと考えられます。上層はトレンチ5・6同様の造成土からなります。

トレンチ8

池の南東端には水位を調節する配水管が現存しますが、古い時期のものを探るためにトレンチ8を設定しました。深さ0.8mまで灰色の泥が堆積し近代から現代までのさまざまな廃棄物が堆積していました。現在の南岸から約1mはなれてやはり丸太を利用した護岸施設が確認されました。また、それとは離れて杭が打たれており、南東方向に排水路のようなものが伸びていた可能性が考えられます。さらに、現在の排水口から下がったレベルで塩化ビニールの配水管が確認されました。現在は土が詰まって機能していませんが、かつて存在したとされる旧排水管の代替施設として埋設され水位を調節していたものと見られます。

8. 出土遺物

今回の調査で出土した遺物としては古墳時代の須恵器甕、平安時代後期の土師器皿（底部に糸切り痕を残すロクロ形成のもの）、白磁碗、鎌倉期の山茶碗、山皿、青磁

碗、常滑焼甕、室町基の古瀬戸碗・皿、江戸期の陶器・瓦などがありますが、コンテナバット2箱とごく少量です。はっきりと原位置をとどめた状況で出土したものではありませんので確実な年代決定の決め手とはなりません。ただし、須恵器甕以外と腐葉層から出土した近世陶器・瓦を除けば、おおよそ平安時代末から鎌倉時代の範囲におさまっている印象を受けます。

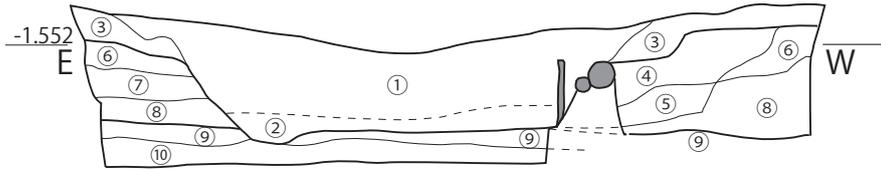
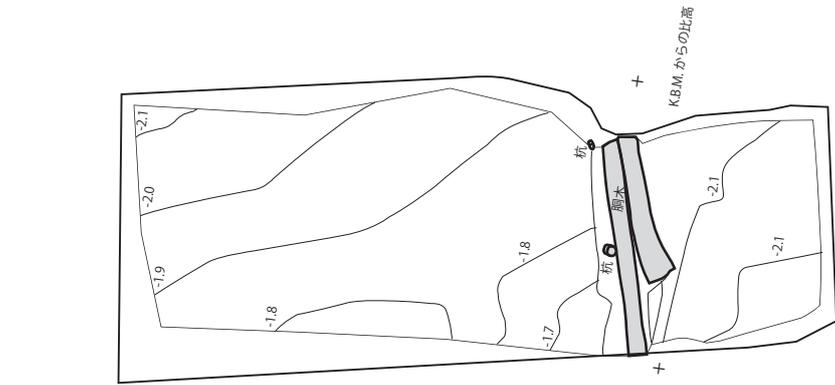
9. おわりに

今回の発掘調査においては築造され、機能していた時期を示す遺物の出土が期待されましたが、池さらえが頻繁に行われていたためなのか、墨書土器や木製の形代などの祭祀に伴う遺物の出土や、宴会・儀礼に伴う土器碗皿類の大量投棄などは見られませんでした。そのため、池の営まれた時期や機能を確実に裏付けるにはいたりませんでした。土師器皿、青磁碗そして山茶碗など大部分の遺物は平安時代末からから鎌倉時代までの時期を示します。少なくとも七島池の築造は平安時代後期より古くは遡らず、鎌倉時代のうちには完成していたと考えておきたいと思います。

また、今回の調査では七島池の築造の方法も確認されました。それは実にシンプルなもので、丘陵斜面裾の豊富な湧水によって生じた谷状湿地を利用し、溝状の池を掘って島の基盤を削り出し、掘削した排土を島に盛り上げたのみという構造です。池の水深も浅く特に護岸の杭や敷石なども施されていないようです。

すでに平安時代には寝殿造に伴う庭園や浄土式庭園など、玉石敷・州浜そして立石などの配石や遣水などによる修景の技法が確立しており、『作庭記』といったマニュアル的な書籍も記されていますが、あえてそのようなものを排して、自然に近い景観の苑池を造成した事にどのような理由があるのか興味深いところです。いずれにせよ、神社に伴う多島式庭園の発掘調査例は全国的に見ても極めて少なく、今後庭園研究において注目を集めるものと期待されます。

伊奈富神社では、全国的に見ても貴重なこの庭園を、本来の姿を保ちつつ後世に守り伝えるため、今年度以降、侵食が進み変形した池及び島岸の修復、不要樹木の伐採等を行う計画です。これらの事業の実施には、神社氏子、地域住民のみならず、広く市民のみなさんのご理解とご協力が必要です。地域の貴重な文化財を後世に活かし守り伝えるため、今後とも、みなさんのご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。



- ①10YR3/3 暗褐色シルト 泥状で腐りきらない腐葉が大部分
- ②10YR3/1 黒褐色シルト 泥状でほぼ腐葉の堆積, 検出時は 10YR4/4 褐色だがたちまち変色
- ③10YR4/1 褐灰色シルト 泥状でほぼ腐葉の堆積
- ④10YR4/2 灰黄褐色シルト 泥状でほぼ腐葉の堆積
- ⑤10YR3/2 黒褐色シルト 泥状で小枝ほか分解した植物を含む
- ⑥10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘質, きめ細かく砂は含まない b 腐葉の間層
- ⑦7.5YR3/3 暗褐色シルト よく締まるが薄い層状に剥離する
- ⑧7.5YR3/2 黒褐色シルト 粘質, 腐葉をラミナ状に含む, カーボン粒多い b 5Y8/1 灰白色砂間層
- ⑨N5 灰色砂 シルトを含み粘質
- ⑩10BG6/1 青灰色シルト 砂を含む

図4 1 トレンチ平面図・断面図 (1/50)

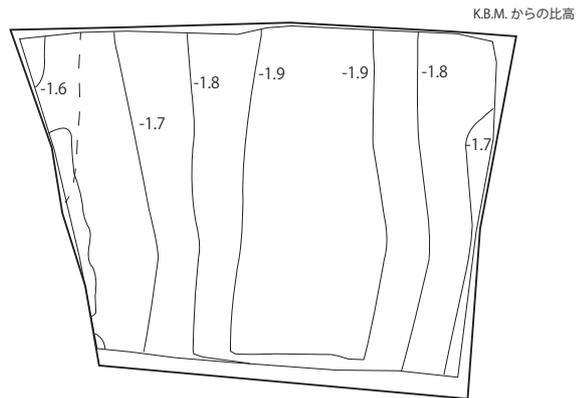
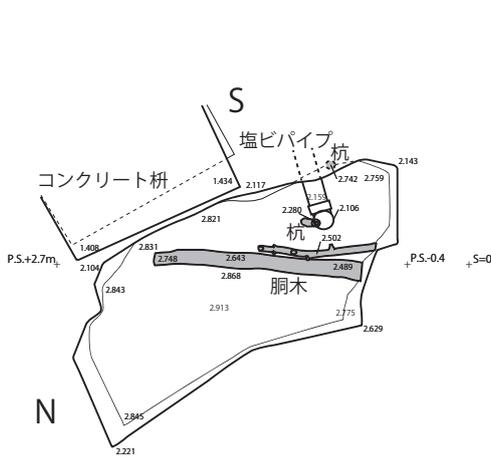
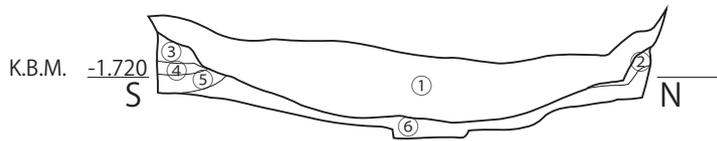
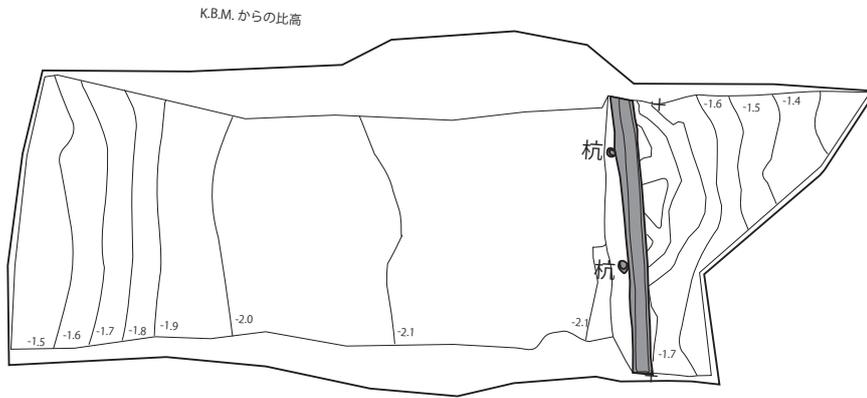


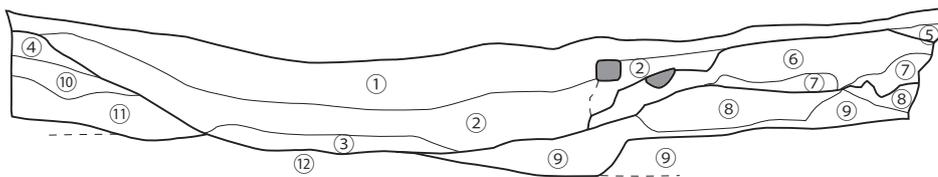
図6 8 トレンチ平面図 (1/50)

- ①10YR3/3 暗褐色シルト 泥状で腐りきらない腐葉が大部分
- ②2.5YR6/1 黄灰色シルト 2.5Y6/2 灰黄色砂が網状に混じる
- ③2.5YR5/1 灰黄色シルト 砂が混じるが強粘質 10YR3/3 暗褐色に変色する
- ④10YR4/2 灰黄褐色シルト 2.5Y6/2 灰黄色シルトがブロック状に混じる
- ⑤10YR3/1 黒褐色シルト 強粘質
- ⑥10BG6/1 青灰色砂質シルト 2.5YR7/4 浅黄色へと変質

図5 2 トレンチ平面図・断面図 (1/50)

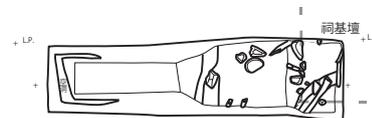


K.B.M. -1.052



- ①10YR3/3 暗褐色シルト 泥状で腐りきらない腐葉が大部分
- ②10YR3/1 黒褐色シルト 泥状でほぼ腐葉の堆積, 検出時は 10YR4/4 褐色だがたちまち変色
- ③10YR2/2 黒褐色シルト 強粘質
- ④2.5YR6/2 灰黄緑色シルト 10YR3/2 黒褐色シルトをブロック状に含み, 腐葉・枝等のこる
- ⑤10YR4/1 褐灰色シルト 繊維質が残り分解した腐葉の堆積
- ⑥10YR5/2 灰黄褐色シルト 強粘質
- ⑦10YR3/3 暗褐色シルト 植物質の繊維を含む
- ⑧10YR2/3 黒褐色シルト 3~10cmの礫を多く含み, 小枝ほか分解した植物を含む
- ⑨7.5YR3/2 黒褐色シルト 強粘質, 葦等の根が多く見られる。
- ⑩7.5YR3/2 黒褐色シルト
- ⑪5Y5/2 灰オリーブ色シルト 粘質
- ⑫5Y5/1 灰色砂 シルトを含み締まる

図7 3トレンチ平面図 (1/50)



- ①7.5YR4/1 褐灰色シルト + 7.5YR3/3 暗褐色シルト (水蝕再堆積)
- ②5YR3/2 暗赤褐色土 (腐葉土堆積層)
- ③10YR5/2 灰黄褐色シルト (腐葉土堆積層)
- ④2.5Y7/2 灰黄色シルト (礫含む: 祠整地層・石版片含む)
- ⑤7.5YR3/3 暗褐色シルト (腐葉繊維質含む)
- ⑥10YR6/8 明黄褐色シルト (山土造成土)
- ⑦炭化物層
- ⑧7.5YR3/3 暗褐色シルト + 10YR4/1 褐灰色シルト (粘性強い)
- ⑨7.5YR3/3 暗褐色シルト + 10YR4/1 褐灰色シルト (粘性強い)
- ⑩10YR5/2 灰黄褐色シルト (粘性強い)
- ⑪10YR2/3 黒褐色シルト (粘質)
- ⑫7.5YR2/2 黒褐色シルト (粘質: ヨシ等の根多い)

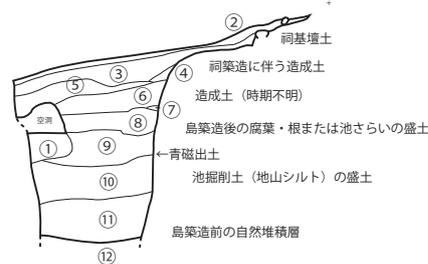
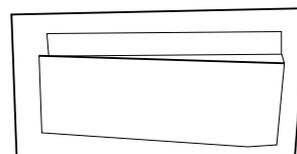
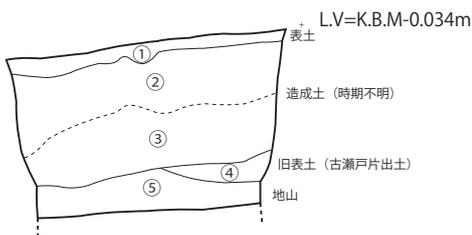


図8 4トレンチ平面図 (1/50)



- ①7.5YR3/1 黒褐色シルト + 10YR6/1 褐灰色砂 (樹木細根)
- ②10YR6/8 明黄褐色シルト (粘性強く・締まりよし)
- ③10YR6/8 明黄褐色シルト + 7.5YR6/8 橙色シルトブロック混じる
- ④5Y6/1 灰色砂質シルト
- ⑤5Y6/1 灰色シルト

図9 5トレンチ平面図 (1/50)

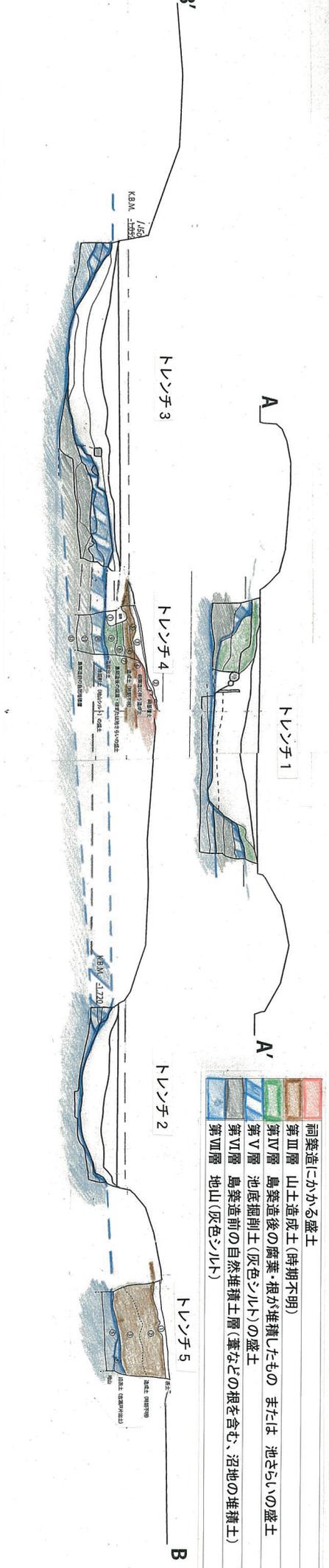


図 10 島・トレンチ土層概念図 (1/75)

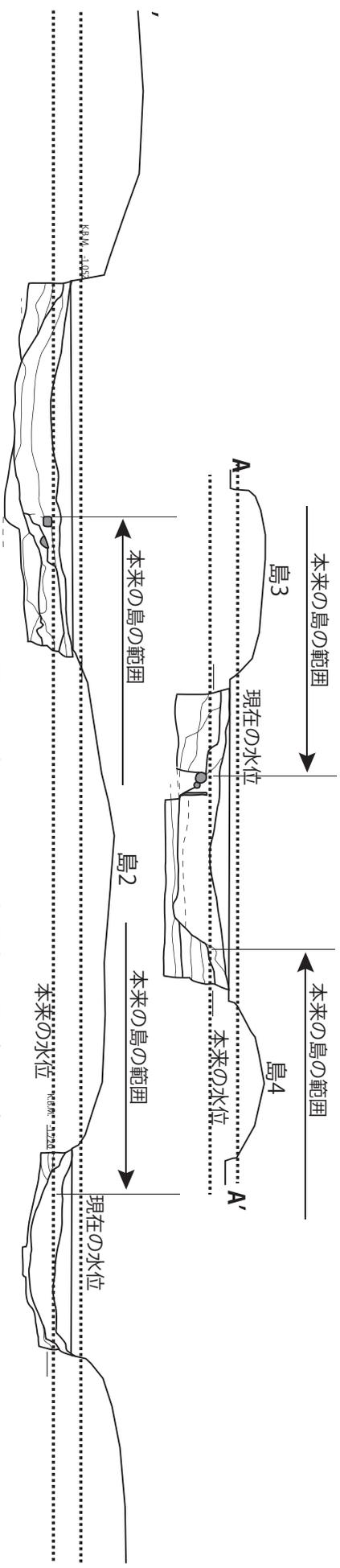


図 11 島・トレンチ土層断面図 (1/100)



図 12 島 2 調査前 (北から)



図 13 島 4 調査前 (北西から)



図 14 トレンチ 1 (東から)



図 15 トレンチ 2 (東から)



図 16 トレンチ 3 (南東から)



図 17 トレンチ 4 (東から)



図 18 トレンチ 5 (東から)



図 19 トレンチ 8 (西から)